

2016年度

テレビ長崎 番組審議会概要

# 第 506 回番組審議会

第 506 回番組審議会は、2016 年 4 月 13 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

KTN制作の番組「さくら色のファンファーレ～活水吹奏楽部の未来を変えた 12 分～」

放送日時 2016 年 3 月 5 日（土）15 時 30 分～16 時 25 分放送

## 出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 園田 郁子 大川 綾 近久 宏志

以上 8 名

放送事業者側の出席は 9 名

## 審議の概要（委員からの主な意見）

「さくら色のファンファーレ～活水吹奏楽部の未来を変えた 12 分～」（2016 年 3 月 5 日(土)放送）  
について

- ・無名だった活水高校の全国大会出場という奇跡とも言うべき活躍に感動した。先生か生徒どちらかにフォーカスを絞った方が、視聴者は感情移入しやすかったと思う。
- ・生徒たちが昼寝や本音を語りながら涙するというありのままの姿を見せてくれたのは、ディレクターが足しげく取材に通った成果がでていたと感じた。楽器のメンテナンスをしてくれている楽器店や保護者などの、部を支えてくれている人たちを取り上げたらもっと広がりがあったと思う。
- ・時間配分や内容などバランスがよく、分かりやすくまとまっていた。
- ・先輩後輩の友情関係がよく描きだされていた。転校してきた生徒は 2 年生ながらパートの中心的存在であり、後輩からのあこがれでもあるが、みんなの前では隠していた本人の葛藤をカメラの前で告白していた。これは取材力あってのこと。
- ・全国大会に行くということはすごい事だが、それに値するすばらしい演奏なんだということを感じ取るには短すぎた。1 曲まるごと流しても面白かったのでは？
- ・非常に心に残る心地よく共感できる番組だった。同好会として楽しくやってきた部長と全国大会を目指す体育会的転校生との絡みがあればさらに深みが出たのでは？
- ・見ている側が一生懸命になれることがあるのは良いことだと素直に思わせてくれる番組だった。
- ・ストーリーが判りやすく、しっかりしている。一連の事実を通して勇気が湧いてくると言う内容の、周りを楽しく明るくさせる面を強く感じた。人物の捉え方、取り上げ方、登場のさせ方等非常に巧みだったと思う。

# 第 507 回番組審議会

第 507 回番組審議会は、2016 年 5 月 11 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

**KTN制作の番組「ヨジマル！」**

放送日時 2016 年 4 月 13 日(水)15 時 55 分～16 時 50 分放送

**出席委員** (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 大川 綾 近久 宏志 以上 7 名

放送事業者側の出席は 5 名

**審議の概要** (委員からの主な意見)

「ヨジマル！」(2016 年 4 月 13 日(水)放送) について

- ・夕方のワイド番組としては落ち着いている雰囲気がありよかった。ただ言い換えればあっさりしすぎている。中継コーナー等はずっとはじめてもよいのでは？MCの方はゆっくり聞きやすい話し方をされていて、トラブルにも冷静に対応されて好感が持てた。MCの個性がもっと出せるフリートークのコーナーがあればいいと思う。
- ・スタジオが明るくてMCのお二人も爽やかでとても好印象。私たちの生活が活気づき、勢いのあるものになる街や地域の情報を視聴者に伝えてほしい。最後の中継コーナーのショールームで「来て下さい。お待ちしております。」のコメントが「そこで展示販売しているのか？」と疑問に思ったので、細かな情報がほしかった。
- ・中継で「きれいなパッケージですよ。」というのは現場で見せるよりも、スタジオで見せた方がよりきれいに見えたと思う。クラッチバッグがそれに見えなかったので、開けて説明するなど細かい所の丁寧な作り方があるといい。
- ・ヨジマルは知人が出たり、出演者を街で見かけたりと身近にあり、長崎での生活に密着している。中継コーナーの地図や料理コーナーの詳細をホームページでさらに詳しく紹介するやり方もあるのでは？
- ・この時間帯の一番のテレビ難民は高齢者ではないだろうか？インターネットなどを使えない高齢者に情報を伝えられる番組を願う。今までの情報番組に無いような新しい思い切ったチャレンジをして頂いて、おもしろい番組作りに期待する。
- ・長崎県の小さな世界企業の中でも「こんな企業があったのか！」という所を中継コーナーで取上げたことは大変な力量だと思う。なぜパッケージを始めたのか？なぜ波佐見に存在しなければいけなかったのか？などの疑問も一つ一つ解決してくれた。

## 第 508 回番組審議会

第 508 回番組審議会は、2016 年 6 月 14 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

ドキュメンタリー大賞出品作品「潜れー潜れー 対馬の海女さん物語」

放送日時 2016 年 5 月 27 日(金)19 時 00 分～19 時 57 分放送

**出席委員** (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 園田 郁子 近久 宏志 以上 7 名

放送事業者側の出席は 7 名

**審議の概要** (委員からの主な意見)

「潜れー潜れー 対馬の海女さん物語」(2016 年 5 月 27 日(金)放送) について

- ・番組の構成、バランスが非常に良かった。
- ・ナレーターの落ち着いたトーンの口調が聞きやすく好感が持てた。
- ・日常を通して見えてくる高齢化や過疎化などの地方の問題や海女さんの歴史などがはいて非常にわかりやすかった。
- ・秀子さんの生活や大好きな海、海女さんの仕事を通して番組を見ている人たちに、自分の日常に関して何かを考えさせられる番組と感じた。
- ・今撮らなければ失われてしまうものがあり、ドキュメンタリーは記録を残すというのが重要な点である。今、この番組を作られたというのは本当にギリギリの所で、目の付け所も素晴らしい。
- ・タイトルの「潜れー潜れー」というのが、親から「海女さんになりなさい。」という人生の深い所から来ている、番組内で繰り返しがされ「生きて行く」という事を考えさせると部分もあると感じた。
- ・自分の生活がありながら年老いた母親に「一緒に住もう」という長男の葛藤、島で海女であり続けたいと思う母の葛藤は誰にでもあり得ることであり、それを垣間見れたことは、見ている側の解釈にもよるが、社会問題提起としての意義もあるのではないかな？
- ・全体的に丁寧に作られた番組。海女になった経緯、人となり、タイトルの「潜れー潜れー」に秘められた重い意味、対馬の海女さんの歴史など見ている側が知りたいことに丁寧に答えていた。
- ・後継者や環境の問題なども、逆に淡々と流したことで深入りせず、いい感じに触れられていた。
- ・最後の秀子さんの涙が出るまでは他人事だったが、涙のシーンからは「年老いた親を田舎に残して、お前ならどうする？」と突きつけられた感じがして我事として見る目が変わった。しかし、その後が淡々と流れすぎた。前半の明るさと涙の対比があればもう一つの大きなトピックになったと感じた。
- ・過疎や伝統が朽ちている、海の問題などがあり、そこに触れながらも「簡単に答えが出ないものに、簡単に答えを出さない」という姿勢に好感をもった。予定調和的なコメントがあるよりは見る側に色々な事を考えさせると思う。
- ・作りが非常に練られている。色々な情報があちこちに差し込まれていて。スマートな印象を持った。

・淡々と描かれているが、よく練られたドキュメンタリー。自分の生き方を通すという気持ちと、これから老いていく自分と間での葛藤があり、それを見る側に考えさせる構成になっていると感じた。描写がきめ細かく、非常にリアリティが生まれてきている。

# 第 509 回番組審議会

第 509 回番組審議会は、2016 年 7 月 13 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「なるほど！ながさき塾」

放送日時 2016 年 6 月 24 日(金)19 時 00 分～19 時 57 分放送

**出席委員**（順不同・敬称略）

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 園田 郁子 大川 綾 近久 宏志

以上 8 名

放送事業者側の出席は 8 名

**審議の概要**（委員からの主な意見）

「なるほど！ながさき塾」（2016 年 6 月 24 日(金)放送）について

- ・長崎におけるキリスト教の歴史とか弾圧など、長崎で生まれ育った人でも知らないような事とかが紹介されて、大変勉強になる番組だった。
- ・情報量が多すぎて、2・3 回見なければ理解できないかなぁと感じた。
- ・学校で流す教材ビデオみたいな感じもあった。
- ・世界遺産への推薦が取り下げられて数ヶ月が経って、みんなの意識も少し薄れ、関心が離れていく状況の中で、こういったテーマを取り上げ放送する事はすごく意味があったんじゃないかと思う。
- ・せっかく潜伏キリシタンの子孫の方にお話を伺っていたので、少し踏み込んで『どうして住んでいた土地を捨て移住してまでも、あるいは表立って信仰していると判れば、命まで奪われるような状況の中で祈りを捧げ続けたのか？』が知りたかった。大きな疑問として残った。
- ・1 時間の放送という事でもう少しスポットを絞って、深く掘り下げて、番組を作っても良かったんじゃないかと感じた。
- ・場面転換で「プツッ」と切られてしまう感じがしたので、余韻があった方が良かったのでは？
- ・正直食い足りない。綺麗事で作っているなど感じた。その人たちが置かれた苦しい生活状況や周りからの差別などの負の部分を含み込んだ上での世界遺産申請となると思うので、それを避けて話を進められるのかと思う。
- ・番組内では幕府からの圧力があったからという事だが、なぜ幕府はキリスト教を恐れたのかという説明がないままなので、歴史を理解する上でも、その部分は説明不足と感じた。
- ・日本国憲法 20 条の信仰の自由が規定されている意義が強く感じ取れた。
- ・授業の教材として使いたい番組。
- ・資料が資料館ではなく、それぞれの民家、個人の所にずっと今も受け継がれているのは、改めて長崎の文化・歴史はすごいんだなと一つ一つが勉強になる番組。
- ・この時期での放送になるので、世界遺産の登録に向けて、これから先どうなるのか？という話は必要だったのでは？また、2 年後に向けてのスケジュールが情報として欲しかった。

・県内のあちこちで生活の中に溶け込んでちょっとずつ違っている所が興味深く、それぞれのやり方で守ってきて、それぞれ変質していて、それが現代までつながっているという事がよく描かれていた。

・当時の支配者がなぜキリスト教を嫌ったかという事を、導入部で説明が必要だったのでは？

・県内あちこちいろいろあったのに、地図があまり出てこなかった。必要だったのでは？

・非常にコンパクトにキレイにまとめられている。丹念に取材されていて、取材すべき人にきちんと取材している。個々の地域においてこの人に聞けばほとんどの事はわかるという所をきちんと押さえられている。言っている内容も的確で、非常に評価できる内容になっていたのではないか。

・なぜこういう事が世界遺産の対象になるのかという、人類の普遍的価値の部分の世界史の流れの中で、日本の独自性・特殊性というものを大きな視点から見て語っていただけの第三者がいれば、もっとすばらしい物になったのではと感じる。

## 第 510 回番組審議会

第 510 回番組審議会は、2016 年 9 月 14 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「まるごと漁業博物館！～平戸で体感！素敵な漁業～」

放送日時 2016 年 7 月 30 日(土)16 時 20 分～16 時 50 分放送

**出席委員**（順不同・敬称略）

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 大川 綾 近久 宏志 以上 7 名

放送事業者側の出席は 8 名

**審議の概要**（委員からの主な意見）

「なるほど！ながさき塾」（2016 年 6 月 24 日(金)放送）について

- ・実際に漁業をしている所では機械化が進んでいて、とても楽しそうに生き生きと仕事をしている姿を見て、漁業に対するイメージが変わった。
- ・2,3 回見たが、何を伝えたいか分かりづらかった。見ている人からすると分かりづらいテーマだったのでは？
- ・番組の構成としては、とてもスムーズで見ていて違和感はなく、流れがあると感じた。
- ・女性リポーターが船に乗るのであれば、作業をしなくとも長靴かスニーカーの方が違和感がなかったと思う。
- ・平戸瀬戸市場は主婦の立場として、最も興味をそそられる所だったが取り扱っている商品とかをもう少し丁寧に幅広く紹介してほしかった。
- ・全体的に楽しくて、機会があれば足を運びたいと思った。
- ・出演者に一般の家族を使って、子供の素直な感想とか、お母さんの驚きとかがあるともっと身近に感じられたのでは？
- ・30 分の番組の中で何を伝えたかったのか？1 本筋の通ったものが無かったように感じた。
- ・オランダ商館もお城も出てこないで、漁業だけで平戸を語るという切り口が斬新だと感じた。
- ・鯨の歴史を少しでも掘り下げた解説があれば、漁業の深みが出たのでは？
- ・現場で働いている方が、生き生きと明るく、楽しげにまぶしく働いているのがよく伝わってきた。漁業後継者が育つきっかけになりそうな番組だと感じた。
- ・漁業の教材ビデオとしての付加価値もあると思う。
- ・山口先生の説明の詳しさ、分かりやすさに驚いた。

# 第 511 回番組審議会

第 511 回番組審議会は、2016 年 10 月 12 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

## 「第 30 回五島夕やけマラソン」

放送日時 2016 年 9 月 3 日(土)16 時 25 分～16 時 55 分放送

### 出席委員 (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 大川 綾 近久 宏志 上 7 名

放送事業者側の出席は 7 名

### 審議の概要 (委員からの主な意見)

「第 30 回五島夕やけマラソン」(2016 年 9 月 3 日(金)放送) について

- ・名前だけは知っていたが、番組を通して夕焼けマラソンの事を知る事ができ、地元の方が楽しんでマラソンに携わっているという事が伝わってきた。
- ・3000 人が参加という言葉だけでは想像がつきにくかったが、スタートの場面を見るとたくさんの方に長年支持されている人気の大会なんだろうなあというのを感じた。
- ・最後にロールスーパーで結果が出ていたが、わかりづらかった。静止画で見たかった。
- ・30 回の記念大会ということだったので、大会の 30 年の歩みみたいなものがあったのでは？なぜ大会が始まったのか、どういう風に大きくなっていったのかという話を聞きたかった。
- ・もしこの番組が全国に放送された場合、それを見ていた人たちも五島あるいは夕焼けマラソンに「惹きつけられる。」という事を考えて作られると、新しい切り取り方が出てくるのでないか。
- ・全体の紹介もあり、核となる人もクローズアップし、レースも紹介しなければならない、それらを織交ぜながら 30 分のまとまりは良かった。
- ・ボランティアの子供たちの活動が克明に描写されているのが印象的だった。
- ・当初 80 人でスタートしたマラソンが 3000 人に大きくなった魅力とか秘密を知りたかった。
- ・夕景を見ながら走る、ボランティアとか地元の方の応援、五島牛は当然あるが、それ以外の人々を惹きつける魅力がまだまだあると思うので、次回以降表現して頂きたい。
- ・30 回という事で、自然の中を走る、島民総出で作っている大会という予備知識を、視聴者がみんな持っているだろうという所に依拠して作られた感がある。
- ・わざわざ五島に行って参加しようというイベントが存在している事自体が、県内の他の地域のイベントになり、勇気を与える。

# 第 512 回番組審議会

第 512 回番組審議会は、2016 年 11 月 22 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「響けヤーハ ～長崎くんち 元船町の絆～」

放送日時 2016 年 10 月 28 日(金)19 時 00 分～19 時 57 分放送

**出席委員** (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 大川 綾 近久 宏志 以上 7 名

放送事業者側の出席は 6 名

**審議の概要** (委員からの主な意見)

「響けヤーハ ～長崎くんち 元船町の絆～」(2016 年 10 月 28 日(金)放送)について

- ・踊り町の中の人間にしかわからないことがあり、番組内で紹介してもらえて、くんちや踊り町の事を深く知らない人にとっても勉強になるいい番組だった。
- ・ほんの数か月間だったが、子供たちの成長している姿や表情が変わっていくのを見て取れた。
- ・残念だったのがタイトルに絆とあるのに、根柢衆の個々の紹介が少なかった。もっと根柢衆どうしのつながりを感じられれば、より一層番組に深みが増したと思う。
- ・前半 15 分間くらいのカメラのぶれが気になった。見ていて気持ちが悪くなる感じがした。
- ・町の歴史の紹介から始まって、物事を追っていくオーソドックスな作りだが、堅実に元船町の事を追えていて、勉強になり高く評価できる。
- ・毎年行われるお祭りはなかなか新規に入っていないが、7 年に一度だと新しく入ってくる。そこから関わり合いが生まれる。くんちによって作られる都市化されたコミュニティーの形成は意味があり、社会学的に見ても面白い。
- ・全編を通して、見ている側の知りたいと思っていることを、簡潔にその都度答えてくれた丁寧な作品。
- ・本番が近づくにつれ、顔つきが明らかに変わっていく、ドラや鐘がどんどん強くなっていくなどの表現はテレビの映像ならではの表現。
- ・「町の人口は増えているが、人間関係は希薄になっている」というコメントが番組内にあったが、それが元船町あるいは長崎くんちにどう影響しているかという事を広げるともっとよくなったのではないか？もう一ついい場面が見られたのではないかと感じた。
- ・子供たちが成長しているのをカメラも一緒に見守っているのが伝わってきた。撮り手の思いがきちんと現れていた。
- ・動いているものがピタッと止まる動と静のバランスの美しさや、子供たちが一生懸命に鐘を叩くシーンが映像として映し出すことにより浮き彫りになっている。これが次世代への継承となっている。
- ・短い中によくまとまった迫力のあるドキュメンタリー。くんちを知っている人にも知らない人にも懇切丁寧に説明している。

# 第 513 回番組審議会

第 513 回番組審議会は、2017 年 1 月 17 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「なるほど！ながさき塾」

放送日時 2016 年 11 月 29 日(火)19 時 00 分～19 時 57 分放送

**出席委員**（順不同・敬称略）

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 石川 由香里 柴田 守 園田 郁子 大川 綾 近久 宏志

以上 8 名

放送事業者側の出席は 7 名

**審議の概要**（委員からの主な意見）

「なるほど！ながさき塾」（2016 年 11 月 29 日(火)放送）について

- ・長崎市を中心とした再開発という事で、長崎の「今」そして「これから」を学べる番組だった。また、今後の課題とかそこに住んでいる私たちもこれからどのような判断をして行くのかを考えるいい機会になった。
- ・内容が盛り沢山で、現在長崎市が抱えている事業が一目で判るフィリップが分かりやすく理解することができた。
- ・駆け足で紹介された項目もあり残念だった。
- ・市民一人一人が賛成・反対の議論を促すような番組になっていた。
- ・ナビゲーターの竹本さんのコメントが市民目線で我々の代弁をして下さった形になっていて心地よかった。
- ・今後の長崎の展望について分かりやすくコンパクトにまとまっていた。
- ・山積課題をこれからどのようにクリアして行くのか？費用対効果が見込まれるのか？など不安な所も感じ、考える機会を提示できたと思う。
- ・再開発をやった結果、どういう風になると想定しているのかという部分が語られて欲しかった。
- ・良質な問題提起になっていた。
- ・ナビゲーターの竹本さんの一市民の目線でのコメント、ナレーターのコメントが非常に示唆的で良かった。
- ・一つ一つの再開発の計画が、そもそもどういう計画があって、今どういう段階まで行って、どういう課題があるというの一目で判って、ディレクターの狙いがよく現れていた。
- ・火曜日の午後 7 時台の放送ということだが、くつろぎの時間帯での番組としては堅すぎた。イラストやグラフを用いてももう少しリラックスして見られる番組でも良かったのでは。
- ・長崎の今の開発がどういう手順で行われていて、将来こんなことができそうというのが提示されているのが、総合的に取り組まれて、非常に分かりやすい番組。
- ・竹本さんはご自分で勉強されて、ご自分の言葉で意見を言われていた。市民の代表として聞き応えのある内容の発言をされていた。
- ・次回はもっと内容を掘り下げた番組を面白おかしく作って頂きたい。

・建物はできたけれど機能しないということになりかねない。そういう所を鋭く切り込んでもらいたい。

・見た人が何か言いたくなるような番組というのは大事だと思う。今回の番組は本当に良い加減でぴったりとなっている。

# 第 514 回番組審議会

第 514 回番組審議会は、2017 年 2 月 8 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「小説『沈黙』の旅～遠藤周作と長崎～」

放送日時 2017 年 1 月 28 日(土)16 時 00 分～16 時 55 分放送

**出席委員** (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 柴田 守 大川 綾 近久 宏志 以上 6 名

放送事業者側の出席は 7 名

**審議の概要** (委員からの主な意見)

「小説『沈黙』の旅～遠藤周作と長崎～」(2017 年 1 月 28 日(土)放送)について

- ・遠藤周作先生がこの小説を書くきっかけが何だったのか？どの様なことを材料に書き上げたのか？などがよく分かった番組だった。
- ・羽田さんと山根先生が資料や写真・史跡を巡って小説の舞台裏を紐解いて行くという作りは非常に分かりやすくよかった。
- ・小説の世界観を映像化し、所々に入れて行くという手法をされていてすごく見やすかった。
- ・非常に美しく臨場感に溢れる映像でよかった。
- ・男性ナレーターの声も聞き取りやすく、見やすい番組。
- ・小説や映画を見てみたいと思わせる番組だった。
- ・難しいテーマだと思うが、ナビゲーターの羽田さんや山根先生のやわらかくてかみ砕いた分かりやすいお話がとても理解しやすかった。
- ・遠藤周作さんの長崎での足跡を辿りながら、映し出される長崎の美しい風景、ドラマ仕立てになっている所などを織り交ぜながら場面転換される所が巧みで興味を惹かれる番組。
- ・遠藤周作さんが長崎を辿る中で作家が紡ぎだした言葉を適宜引用されていてよかった。また、それを読む男性ナレーターの声がよく、文字として表れている所も非常によかった。言葉の美しさの再発見があった。
- ・羽田さん山根先生のコメント・立ち位置が控えめな感じで彩りを与えており、言葉の美しさがテレビの映像から出ている。
- ・テロップの誤植が数か所あり、もっと細部までこだわりを持ってやって頂ければ完成度も高くなる。
- ・再現シーンでのかつらが気になった。
- ・視聴者にこういう事を伝えたいというのが見ていてすんなり入ってくる番組だった。
- ・硬質なテーマだったが 1 時間じっくり見られる番組だった。
- ・禁教時代にカクレキリシタンがなぜ現れたのか？また、クリスチャンである遠藤周作自身のキリスト教に対する葛藤は、今回のテーマを語る上では欠かせなかったと思うので、前段でそういう背景の説明があれば番組により深みが出たと思う。

- ・きれいな映像、盛りだくさんの内容で長さを感じさせない番組だった。しかし、盛りだくさん過ぎて若干目まぐるしい印象もあった。
- ・作り手側の「小説を読んでもみよう」「映画を見てもみよう」「訪ねてもみよう」というきっかけ作りになる番組という主旨と出来てきた物がいいさじ加減でまとまっている。
- ・エッセイの部分の読みが早口に感じた。また、ナレーションとは違う内容のテロップが出ていた所が気になった。
- ・最後に遠藤周作さん自身が出てきて話しているシーンがあるが、視聴者がいろいろ考えてきた所で最後に本人が出てきて答えを言うという作り方は、その場面があった方が明らかに厚みが出るが、議論が分かれるところだと思う。
- ・「沈黙」をテーマに多くの情報を1時間の番組によくまとめあげられたと感心する。長崎の自然の美しさとそこに生きてきた信者たちの歴史をうまく組み合わせて、自然と人の営みを上手くまとめられている。全国に配信しても見応えのある番組だと思う。

# 第 515 回番組審議会

第 515 回番組審議会は、2017 年 3 月 8 日にテレビ長崎で開催され、下記番組について審議。

「笑って進むよ」

放送日時 2017 年 2 月 25 日(土)26 時 15 分～26 時 45 分放送

**出席委員** (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 進藤 卓也 柴田 守 石川 由香里 園田 郁子 大川 綾 近久 宏志

以上 8 名

放送事業者側の出席は 7 名

**審議の概要** (委員からの主な意見)

「笑って進むよ」(2017 年 2 月 25 日(土)放送)について

- ・ドキュメント番組ということで、事実に基づいてありのままを写し視聴者に見てもらう形の中で、夢華さんの笑顔が非常に印象的だった。
- ・笑顔が素敵だけれどもその裏側にある苦悩とか青春時代の悩み・考え方など番組の中で語ってほしかった。
- ・番組の最後がバツサリ切ったような感じを受けた。見終わった後に続きがあるのかと感じた。
- ・夢華さんが難病を克服し、ご自身とご家族の方の今見せてくれる笑顔ではなく、心からの笑顔が戻ってくればと切に願う。
- ・視聴者は番組を見ながらそれぞれの考えや思いを巡らせるが、そのためにも間が必要。この番組を見ていて与えられる情報が少なく疑問符が頭にいっぱい浮かんだ。
- ・「家族の支え」という言葉が番組内で出ていたが、家族の紹介が少なかった。あれば「家族の支え」に厚みが出たのでは。
- ・抗がん剤や手術の事もサラッと流されていて、放送を一度見ただけの人が情報としてスムーズに入ってくるように「もう少しナレーションでカバーされていればなあ。」と感じた。
- ・本人の明るく振る舞う病氣と向き合う姿に感動し、笑顔の先には明るい未来があってほしいと心から思った。
- ・放送したことにより夢華さん自身に何かデメリット的なことがあるのではと思った。そのデメリット的なことを放送したテレビ局側でケアしなければいけないところもあるのでは。
- ・番組の作りはお涙頂戴ではなく淡々と作られていて、すんなり素直に見ることができた。しかし、淡々と作られていて何を伝えたいのか見えにくくなっている。
- ・今後、時間をかけて追いかけて行くという事だが、今このタイミングでなぜ放送したのかという疑問が湧いた。
- ・リハビリもしているだろうが、そこが出ていなかった。そういう場面があればよかった。
- ・番組の最後が再手術、再入院しますという所で終わってしまい、もやもや感・不安感だけが残り、見終わった後の感想はあまりよろしくなかった。
- ・彼女の明るく印象的な表情は事実は事実だろうが真実なのか？彼女の本心の深い所にある真実に近づけるところまでの思い・言葉・表情を見たい。

- ・取材をする側が取材対象者に受け入れられしっかり寄り添ってくれているという信頼感の下で撮られている感じはよく伝わった。
- ・全体の描き方が抑制が効いていて、作り手側の「この子を見守っています」「がんばってください」という願いを込めて作っていますというのがよく伝わった。
- ・30分という短い番組であるが前向きに生きる、笑顔を絶やさないといい生き方に勇気もらった人もたくさんいただろう。筋の通った主題を描いているまとまりのある番組。
- ・受け止め方が人により全く違う難しい番組だったと思う。是非続編の番組を期待する。